

C.P.Iの皆さんの救援募金に感謝します

ジャワ中部地震では、ジョグジャカルタの教育里子の家庭が集まって救援を受ける方法を考え
C.P.I.はその提案に応えて活動しました。

2006年5月27日の朝5:54に、M6.2の地震が
中部ジャワの要地ジョグジャカルタを襲い、
死者5,716人被災者:65万人の惨事になった。

C.P.I.は、小西会長が所用で現地に到着した翌日だったこともあって、地震の翌日から、迅速な初期救援を行うことができました。特筆すべきは、協力団体PPKIJが各地の青年委員会と協力体制を敷き、多くの民衆からの物資を収集して搬送できることです。おかげで初期投下10万円ほどの小額にもかかわらず、早く大量の物を贈ることができました。その後、被災地域の教育里子家庭すべてが集まった集会で



応援に駆けつけたPPKIJの卒業里子たち

要請された救援提案に応じて、全壊した家庭20棟に対する家の復興を行いました。大学生ボランティアを得て、整地して瓦礫の中からレンガ・瓦を集め、竹柱と竹網およびセメントを一戸あたり45,000円で購入し、予定どおり9月いっぱい20棟の復興をしました。そのほか教材供与活動を被災した教育里子たちに行い、専任で作業に係った奨学卒業者5名の生活費3ヶ月分を支えました。支援総額160万円ほどです。

C.P.I.会員の皆さんに心から感謝を申し上げます。



応援に駆けつけたPPKIJの卒業里子たち。竹壁の仮設住宅が出来て
リンダさん(右から2人目)家族はやっと落ち着いた。

なお、詳しくはWEBページにありますので、
ご覧ください。該当WEBページアドレス:

<http://www.cpi-mate.gr.jp/help-yogya.htm>



現地活動の自立まで、まだまだ苦労が続いています。

C.P.I.はPPKIJと協力して、教育里子への教育支援に一層の充実を図っています。ところが、近年の会員の減少により、子どもたちの精神面のケアおよび自立に向けた指導に係る活動費を捻出できなくなっています。この面の現地化を急いでおりますが、たいへん苦労をしています。支援にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご親戚、学友、社友や遊び友だちの方々にお声をかけてください。「会員の増強」並びに「ご寄付」につき、ご紹介を戴きますと、本部から案内状を送るようにしております。職場などへの掲示用ポスターも用意しております。

電話又はFAX : 0422-49-3808

E-mail: cpimate@gmail.com

私たちがインドネシアの教育制度について考えていること

No. 3845 Yeni Fitria(F 22才)Malan

すべての教育里親の方々、友情とともに私たちをご支援してくださり、ありがとうございます。私は、皆さんのご支援の意味を解っている教育里子たちのすべてを代表して手紙を書いています。私たちは“賢い”という言葉をもらうために、苦い、あわれな悲しいインドネシアの現実を容れていくつもりはなく、やり方を変えていくために毎日勉強しているのだ、ということを知って戴きたいのです。



“高校のときからの产学協同”が問題

“科学を探求せよ、たとえ独裁国家のためでも”という昔からの皮肉な言葉があります。そのような状況を早く解決しなければ『教育の自由』があるとは言えないということです。インドネシアは、独裁者がいなくなりました。しかし、様々な問題をかかえています。高校においては地方政府による“教育の地方自治”が特に問題です。教育に係る地方自治は、開発戦略的な価値で考えられていて、その地方の開発にとって有用な人材を向上させるための環

境設置(設備を含め)に重点が置かれています。自治申請を行うと公立学校(PTN)は地方政府の所有になります。BHMNと呼ばれます。BHMNは政府からの助成金がありません。運営費を自らまかなう公立学校もありますが、多くは授業料の値上げで費用を賄っています。BHMNの称号をもつ公立学校の価値を高めるために、地方政府は教師や働く人のためのお金をつり上げ、教育費は毎年高くなる宿命をもっています。

いまは、C.P.I.のご支援に甘えるしかない

低所得階級の家庭にあって進学を考えるものにとって、BHMNのもとの公立学校(PTN)は、雲の上の存在になります。これが、教育を受ける権利に対する差別でなくて何でしょうか？

頑張ってそのような高校に入れて成績がよかつたとしても卒業試験を突破しなければなりません。問題は受験する費用がとても高いことです。

所得の低いものは、そこで非常に悲しい思いをし、そもそも入学したのが間違いだったと、後悔することになります。幸いなことに私の家庭は、公立校に

入学した私のために、高い入学金を、なんとか工面してくれています。学用品もなんとか買ってもらっています。その勇気がどこから出るのかといえば、授業料や卒業費用がC.P.I.によって支えられるという希望があるからです。私たちは、このような教育の状況の中で、C.P.I.が、教育里子のために、高校の授業料や卒業試験費用のうちの多くの割合を支援してくださっていることに甘えています。私は、私たち自身の手で、このような状況を変えることでご恩に報いなければならないと考えています。

このような社会に変えたい

インドネシアは、トルコやブルネイ、エジプト、ドイツ、フランス、オランダに学ぶべきです。授業料も安く、多くのことを学ぶ機会があります。

国民の保障された教育をうける権利は、正義の問題であるからです。保障された教育をつくる要素は本、そして教師だと思います。私たちは、“教育を受ける権利”を守るためなら、多くのことを我慢できます。例えば、教科書ならば私たちは「お下がり」の本でかまわないのでです。

あとは、教師が、意欲をもった学生に意欲をもって教授できる環境を築く必要があると思います。政府は、そのためにこそ投資すべきです。

早く大人になって、インドネシアの教育を知識と

技術の向上へと方針を変える立場になりたい。そうなれば、卒業生は、より広い産業や仕事の世界に足を踏み入れることができるはずですから。



No. 4201 Umi Mahfudhoh
(F 19歳、SMA 3) Jember



希望----そして努力

希望とは“欲”的感覚であり、見えた見えなかつたりする“夢”的ようなものだと思います。

人生には、前よりよくなろうとする“欲”が毎日あります。それをかなえるために、自信と希望を持ち続けたい。

希望があると、生活に活気が生まれます。私たちはときどき難関にぶつかります。

もしも希望が持てなければ、どうなることでしょうか？

私は高校を卒業して、大学へ進学する“夢”を持っていました。しかし経済的な理由で、両親は支援することができません。私は神にこの問題が解決できるよう祈り、解決できると信じ続けていました。C.P.I.のおかげで夢が叶い、大学に行くことができました。

希望が叶えられたいま、私は大学を卒業できるよう努力することを、自分自身に誓っています。

No. 3838
Dewi Vinanti Nur Yuliana
(F 20歳、SMA3) Jember



私の週末

「私はあまり手紙を書けません」

C.P.I.からSATOKOさんがワークショップをしに来られたので、そう言いました。SATOKOさんから「起きて動いている人は、人に話せることを何かしているのだから、それを書いたらいいのよ」と言われましたので、週末のことを書いてみます。

毎週土曜日は図書館に行きます。特に私は法律についての本を読みます。法学部の2年生だからです。3時にはジュンペール(Jember)のJECCという英語の学校に行って、子供たちに英語を教えるインストラクターの仕事をします。子供たちの世界はとても美しく、ゲームなどを共にすることで子どもたちとの距離は縮まります。私はこの仕事をとても楽しんでいます。

JECCでの仕事の後、6時にはTexasというところ

No. 4173 Qurrota Ayuni
(F 15歳、SA1) Bogor



いま、もう大変です！

こんにちは。私の名前はNinaです。15歳で高校1年生です。

私の高校はSMAN 3という名前で、かなり名前が通っている高校です。

私の2006年の目標を紹介したいと思います。クラスでトップをとることです。

それから歌のトレーニングもしたいと思います。友人は私が歌手になるだけ十分いい声をしているといってくれますが、そこまで有名な歌手になることは無理でしょう。趣味の範囲だと思います。実は、一番大きな目標は高校2年生になるときのクラス分けて、科学の専攻学科に入りたいです。

通常インドネシアでは通常2年時に科学系の分野か社会系の分野にわかれます。物理、数学、生物学、化学で優秀な成績をとらなければなりません。優秀な人ばかりが並ぶ講義を想像して、もう頭がいっぱいになっています。

何かを成し遂げたければ、ただ座って与えられるのを待っているわけにはいきませんから、できるかぎりの力で努力するつもりです。それは友達と遊びまわる時間を減らさなければならないということでもあります(涙)。

でも、がんばります。どうか私のために祈ってください。ありがとうございました。

で日本語のコースをとっています。日本語はとても興味深いです。4ヶ月前ぐらいに、桜の花や寿司など日本文化について学びました。

日曜の朝にはタウンスクエア(中心街)で弟と妹と一緒にジョギングをして、そこで朝食をとります。毎週末多くの人がそこで朝ごはんを食べます。夜は月曜日のための準備におわれます。

私の週末はこんな感じです。

奨学金をサポートしてくれてありがとうございます。奨学金のおかげでやりたいことにたどりつけます。こちらにも教育里親さんのニュースが欲しいです。井上さんが私の教育里親さんですが6年の間一度もお便りがありません。でも私は彼女がとても恋しいです。

いつかお会いして感謝を表したいです。

教育里子たちの気持ち

インドネシア人は、友だちをとても大切にします

No. 4181 Asri Rachmawati (F 16歳、SA2) Bumiayu

私は Ta'allumul Huda イスラムの高校の学生で2学年です。

C.P.I.のSATOKOさんが私たちの地域でワークショップをしてくださいました。

「いちばん元気がでるのは、どういうときか」というテーマで話し合いました。

SATOKOさんは、私たちと、それほど年が離れていません。“お姉さん”くらいの年です。そのような日本人からの「元気が出る」ときの話を聞くのも初めてなので、とても興味がありました。私は、カードを作って「元気をくれる友人たち」の話をしましたので、それを発表します。

彼らは非常にすてきで、そして仲のよい友だちです。

私はすごくすてきな、そして時々愉快な少女になる彼女たちを知ったことをうれしく思います。

私がもし困った問題をもって悩んでいたら、相談に乗ってくれるし、助けてくれます。

わたしたちの共通点は、同じ歌や同じ食物が好きなことと、自然科学科を選択していることです。

Ela Kristi Permatasari :

彼女は賢明で、大変親切で、そして親愛的です。1988年5月5日生まれです。彼女の趣味は、彼女のアイドルに手紙を書いて、その返事をもらうことです。我々は彼女の賢明さを尊重します。

Devi Nur Hevni :

中学校の3学年のときから同級生でした。彼女は朗らかな少女です。彼女が好きな格言は、“No day without smile cause you will feel so good with smile”です。

Vriani Destiningtyas :

「Cat」と呼ばれています。彼女の声が猫のように小さくて、面白いからです。彼女は1989年12月27日生まれです。彼女は私たちが誇りにしているMarching Band のリーダーです。

ワークショップで活発に意見交換する学生たち



みんなの妹みたいな

Oktavia Lindiyaniさん、

バトミントンの名手Nena Febri Listiani さんも、大切なともだちです。

Laeli Nur Aprikha : 彼女は少し太っています。Laeli と呼んでいます。1989年4月29日生まれです。女の趣味は 食べることと、コミックを読むことで、歌もとても上手です。

彼女は私が何か失敗をしたとき、いつもアドバイスをしてくれます。

みなさんも友だちになってくださいね！

ムスリムにとって一年でいちばん大切な日

インドネシアの文化

——ラマダンの後のお祝い“イードルフィトゥリ”——

No. 4209 Aryka Pradhana Putra(M、17歳、SA 3) Malang

インドネシアはイスラム教徒が断然多い国であるため、イードルフィトゥリのお祭りはいつも豪華で華々しく、イスラム教徒だけでなく、この日に幸福を祈る多くの人々を魅了しています。神によってすべての罪を解放され、けがれのない人に戻ろうということで、イードルフィトゥリ(聖に戻るの意)という名前がつけられています。

イードルフィトリの意味

聖に届くためには30日間断食をしなければなりません。これをラマダンといい、夜明けから日没まで一切の飲食を断ちます。(子どものころから慣れるために、断食の日数を延ばしていき、一ヶ月の断食をできると一人前と呼ばれる)

イードルフィトゥリを始めるにあたって、裕福なムスリムは、その他の貧しい人々に富を分ける”Zakat”(喜捨という意味)という行為をしなければなりません。

イードルフィトゥリ前夜には楽器を鳴り響かせて、神を讃える”takbiran”を行います。その朝には、“Ied”というお祈りをします。このお祈りはイードルフィトゥリの朝、通常モスクなど公共の場で行われますが、人数多いため草原や道などでも行われます。その後宗教の講義を聴きます。

ところで、神聖とは、誰かに間違ひを犯した場合には完成されません。そこで、それぞれが罪を詫びる行動を行います。家族、ご近所、友人などに自分のした過ちを謝ります。このようなことがイードルフィトゥリの行事で行われることです。

みんな故郷に帰って“謝りの儀式”を行う

イードルフィトゥリのお祝いは各地によって様々ですが、共通していることがあります。

両親のいるところ、または生まれた土地に帰るという”mudik”という習慣があります。”Mudik”的習慣によって家族全員が集まり、謝る行為がしやすくなります。私の家族もマランで”Ied”的お祈りをした後、110Km離れたNhanjukという町に祖父母を訪ねていきます。親戚も同祖父母の家に集まり、イードルフィトゥリを家族全員で過ごします。

ご近所への詫び方は人それぞれです。一軒づつ近所をまわることがあります、村の伝統を守る

人たちの場合、年配の家族は若い家族が彼らを先に訪れるのを持っています。

近代的で忙しい社会では、イードルフィトゥリの何日も後にあらためて集合することもあります。

この、集まって詫びるという行為は”Halal bi Halal”と呼ばれ、宗教的なスピーチと祝宴が用意され、個人の家や、学校や事務所といった公共の施設で執り行われます。謝るときには、握手します。

その場に集まれなかった人は、伝統的なカード、小包を送ります。今では電話やファックス、携帯のメールやEメールといった手段でそれが行われる場合もあります。

儀式が終わると楽しいことが待っている

謝りの儀式が終わると、年上の方が若い人にお金をあげます。日本のお正月のお年玉のようなものです。祖父母から孫、または叔父(伯父)から甥・姪、それから両親から子供というパターンです。イードルフィトゥリの前に両親は新しい服を子供に買い、子供はその服をこのお祭りの時に身に着けるというのも、義務ではありませんが伝統です。そして最後に家族全員で朝ごはんを食べます。イードルフィトゥリの特別な食べ物に”ketupat”という食べ物があります。若いココナッツの葉でご飯を煮込み、たくさんのおかずと一緒に食べます。これを1週間後に食べるという地域もあるそうです。

イードルフィトゥリの文化は、ムスリムだけに限らず他の人々にも受け継がれています。過去の過ちを忘れ、お互いを許し合うことに、イードルフィトゥリの意味があります。イスラム教徒がイードルフィトゥリの清らかさを貫き、文化の中で正しく守っていくことが大切だと思います。



偉大な女性カルティニの日を祝う

—インドネシアの女性が行動的な理由—

No. 4265 Ika Ratna sari (F16歳 SA2) Bumiayu

毎年4月21日は、国民英雄である女性 カルティニ (Raden Ajeng Kartini) の誕生を祝う日だ。

1879年に生まれた彼女が素晴らしかったのは、「インドネシア人が男女平等な立場で独立を果たし、自分たちの国を自分たちの手で栄えさせる」ことを説き続けたことであった。カルティニの英雄的行動が名誉と認められて、独立の後、国から英雄と認められた。彼女は幼少のときこそ評議員

の娘ということでジュバラ(中部ジャワ北部)にあるオランダ小学校に入学したが、様々な慣習の違いから彼女は勉強を続けることができず、小学校だけでの教育しか受けなかった。しかし、大好きな読書から成熟した考え方



インドネシアの文化



や広い視野を得た彼女は、オランダにいる友人に手紙を書き、植民地主義反対の意思を書き記している。

彼女がよく手紙を書いたオランダの友人の家族は、その手紙を彼女の死後、公開しこう名づけた。

”door duisternis tot licht”

「夜明けは暗闇からやってくる」

息子を産んで直ぐ、25歳でこの世を去った彼女の理想と炎は消えることなく後世に語り継がれ、インドネシアの女性はそのビジョンを決して忘れない。カルティニが夢見た、男も女もすべてのインドネシア国民がよくなるという夢を叶えるため、わたしたちインドネシアの女性は非常に行動的である。

伝統的な乗り物“ベチャ”はなくなるのか？

No. 4270 Adi Pranoto (M, 17歳, SA3 (Bumiayu)

ベチャ“Bhechak”とは、インドネシアで古くから多くの人々に利用されている乗り物で、自転車のような形だが、前に2つの車輪、後ろに1つの車輪がついている。

人々にとってベチャは、安く、気軽に乗れる市民の足である。しかし、バスやオジエック(近距離のタクシーバイク)など速い乗り物が出現しそれ以来、ベチャの人気は落ちていている。人々は、速く安い乗り物をより多く活用するようになった。

荷物が沢山あったり、家族で乗ったりするとき、近場であればこんな便利な乗り物はない。

しかし、乗る人が少ないため、ベチャの運転手は経済的に非常に困難な立場にある。狭い路地でも荷物と人を運んでくれる、生活に欠かせなかつたベチャは、なくなるのだろうか。

地球にやさしい人力車は“ベチャ”は、ガソリンの高騰の中で、見直され、生き続けて欲しいものである。



インドネシアの文化

私の好きな食べ物“チキンオポール”

No. 4351 Devy Sapayanti (F 15歳, SA1) Semarang

私はチキンオポールという食べ物がとても好きです。ココナッツミルクと数種類のスパイスで煮込んだ鳥料理です。インドネシアの多くの人が好んで食べます。

イスラムの伝統的にチキンオポールはラマダーン明けのイードルフィトリの時に、遠方から集まってくる家族へのおもてなしの食事として出されます。私の母が作るオポールは格別です！

作り方はそんなに難しくありません。

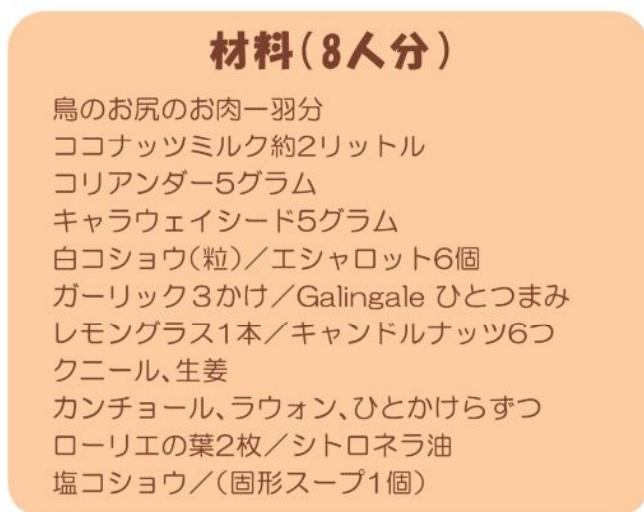
まず鳥を8等分に切ります。コリアンダー、キャラウェイシード、キャンドルナッツ、白こしょう(粒)をすりつぶします。粉状になったところにガーリック、エシャロットを加えさらにすりつぶします。

熱したフライパンに少量の油を加え、すりつぶした香辛料を炒めます。この時、ローリエの葉を加えます。

いい匂いがしてきたら鳥を加えます。

これを別の深いなべに移し、ココナッツミルクを加え、最後に塩コショウで味を調整して出来上がり。(味が薄い場合は固体スープの素などで調整)簡単でしょう。

日本の皆さんもチキンオポールに挑戦してみてください。きっとやみつきになりますよ。



クタンブンチョック (KETAN PENCOK)

ブミアユに来たら是非食べてね！

No. 3988 Fitriana (F 19歳 SAM3) Bumiayu

クタンブンチョックとはブミアユ地域のあるとても有名な食べ物です。その味は甘く、口に広がるおいしさで独特の風味があります。(モチモチした感触で黄な粉をかけて食べる)クタンブンチョックはもち米にココナッツと黒砂糖を加え練って作られる。(黒砂糖は、ジャワの伝統的な赤砂糖というものを通常は使用)ブセック(Besek)と呼ばれる竹で編んだ小さなかごに入って売られています。1箱、およそRp. 5000(日本円で62円ぐらい)です。ブミアユに来たら是非試してみてくださいね。





インドネシア 現地事務所から

地域アシスタントの活力

楽しみな

卒業里子のリーダーシップ

インドネシア駐在 前田聰子

インドネシア・日本教育文化センター(PPKIJ)は、C.P.I.との連携の下で教育里子(奨学生)の支援活動を行っており、ジャワ島に9つの地域センターを置いている。各地域センターの地域リーダーは、PPKIJ発足当時は、各地の青年会のリーダーだった。そのとき20代、30代だった彼らも、いまは大学教授、政府の要人、実業家となった。ボランティアとして、教育指導、里子会による地域清掃奉仕活動や、大学生になった奨学生が運営する『無料塾』などの活動の世話をしているが、彼等は極めて多忙である。

一方、私たちは、学費の教育支援を通じて、子どもたちの社会的な成長を期待している。里子会では、自分たちに何が課題なのかを考えるよう仕向け、「解決のために何をすべきか」を考えるワーク



ショップをはじめている。卒業里子、在学生による「子どもたちのための子どもたちによる活動」を目指して後輩の生徒を指導する「アシスタント・リーダー」を、卒業里子の中から育成しようということで、この十数年の準備をしてきた。幸いインドネシアは、青年の社会活動家がステイタスの階段をあがることができる。青年委員会やカラントルナが受け皿になっている。しかも、女性の社会活動家を大事にする伝統がある(国民英雄カルティニの生誕を国家記念日している国であるから)。

2006年は、万を期して、多忙な地域リーダーに代わって全国のローカル・アシスタントに責任をもってもらおうということで、私が8ヶ月間駐在して育成プログラムをまかされた。各地を周った報告を簡単ではあるが、行ってみたい。

積極的な対話と作業分担の取り決め

会合には卒業里子、現役学生が集まってくれた。自分たちの兄さん、姉さん格に当る「ローカル・アシスタント」を歓迎し、自分たちの役割について

学生たちの気持ち

地域を廻ってみると、地域特性により子どもたちの様子が異なることがわかる。地域リーダーは、これまで大人の論理を押し付けずに、奨学生たちの提案に耳を傾けようと努力してきたようだ。

ようやくきた、連絡などの制約が解決されるとき

10年来の準備がようやく活かされるときがきた。これまで、C.P.I.からPPKIJ本部そして地域リーダーへと流れる情報は、決してスムーズではなかった。逆もそうだ。通信手段の問題だ。最近、ようやく日本一外国の間を携帯メールで結ぶシステム(SMS)が日本でも開始され、連絡がとりやすくなつた。頻繁な活用が必要である。コストは安く、

も積極的に参加しようとした。この「クルアルガ」への投稿記事も引き受けてくれた。

ローカル・アシスタントたちは、それを身近に見てきたこともあり、よくリードして子どもたちとの関係を深め、彼ら自身の活動を行っていくだろう。

効果は高いシステムである。十分な活用が望まれる。教育里子たちは、単なる奨学生ではなく、教育里子会活動を通じて、インドネシアの将来を担う社会リーダーを期待して選ばれた子どもたちである。ローカル・アシスタントが活動的になって、PPKIJの教育里子たちをリードすることが期待される。